

全国一般評議会/春闘中央討論集会を開催 2010「春闘」の課題

自治労全国一般

鹿児島地方労働組合

情報 二〇〇九年十一月二十一日

今こそ地域での労働運動が求められる

12月13・14日の両日、全国一般評議会春闘中央討論集会が東京で開催された。鹿児島からは藤久保委員長と樋口副委員長・立山・楳野書記次長・階元・肥後執行委員・楠元石原分会執行委員が参加した。集会では、連合が09春闘で8年ぶりに「ベースアップ(ベア)」を掲げ、賃金水準の底上げを目指したが、世界同時不況で「ベア」見送りが相次ぎ2010春闘は「経済活動は極めて厳しく、雇用も史上最悪といってもいいような状況で(古賀伸明連合会長)」と述べ統一的なベアの要求を断念した事にふれ、私たち中小労働者にとっては、ベア要求を簡単に断念できる生活実態にはなく、賃上げこそが生活を守る手段である。賃金テーブルのない中小にとっては、具体的な賃上げ目標を掲げて闘う必要があるとした。

全国一般2010春闘調査では組合員の平均賃金は244,658円(40.8歳)であり、35歳賃金で見ても連合集計の標準労働者との格差は7万円、30歳でも5万円もあるなかで、賃上げは切実な要求といえる。①賃金カーブ維持分4,500円②生活向上分500円以上③格差是正分4,000円の合わせて「9,000円」以上ということが確認された。今後も各県本部の討論集会などに積極的に参加して議論を重ね、「春闘」を闘っていくこととなる。

元全統合口へむけて

討論集会のなかで、福井からは自治労との完結合は今年の一月一日に完了しているが、福井ではいまだに連絡会さえ開催されていない現状と課題について報告がなされた。石川・岐阜を含めたいわゆる三県問題について、評議会も積極的に関与して自治労本部に対して行動して欲しいとした。

大浦評議会議長はまとめの中で、三県問題はそれぞれではなく一緒に解決すべき問題であり全国一般総力をあげてこの問題に取り組んでいく事を確認した。

鹿児島地方労組からは

鹿児島からは藤久保委員長が鹿児島市交通局嘱託職員分会結成についての報告をした。

鹿児島市では六月に鹿児島市交通局より「経営健全化計画」が提案され、そのなかで北営業所と桜島営業所については民間委託化する内容の具体的措置案が示された。この間、嘱託職員から交通局労組に経過の報告と今後の処遇に対する考え方を求めたが、交通局労組から「取り合ってもらえなかった」そうした中、嘱託職員には取り巻く環境に変化がなければ、粛々と進む「民営化」にストップがかからないとの不安がつのり全国一般の門をたたいた。

全国一般としては、労働三権を全国一般が掌握する「分会」とし、結成の準備を進めて、十一月十六日に結成大会を開催した。八十七名が参加し、その中の八十三名が加盟の手続きを済ませ、十七日には当局へ「結成通告」を、連合・自治労へ協力要請を行い、現在当局と「委託化問題」について協議を進めていることを報告した。(現在組合員百七名)

《今後の予定》

2010年	
1月 7日	連合鹿児島旗開き サンロイヤルホテル
1月 9日	全国一般旗開き アーバンポートホテル
学習会	・・・16時開会
講師	・・・大浦評議会議長
旗開き	・・・18時開会

職場で一人悩まず、なんでも相談・連絡ください。

「貧困の現場から労働者に求められるもの」

二日目に毎日新聞社社会部の「東海林智」氏から新聞記者として十年間大阪の西成区の労働者の実態や、日本の雇用と社会的な現状について取材を通じて労働者が資本のなかでもがき苦しんでいる実態をこと細かく語られた。

現在ある派遣業の基本は西成区で始まったものであった。当時日雇い労働者の中では、一万円以下では仕事は請けないという暗黙の決め事があったが、仕事が少なくなるなかで金額を下げて働く者が現れ、どんどん安く労働を請け負い、そのことが自分たちの労働単価を下げていったことや、マクドナルドの「名ばかり店長」問題やトヨタの過労死の実態などを例に取りながら資本家は社会の構造をピラミッドの形に置き換えて、頂点に立つ一部をその下の多くの非正規雇用者が支えていけば良いという考えであること。これからの労働組合に求められているものは、まさに全国一般の一人でも加盟できる地域組合にあるとした。

もっと詳しく知りたい方は毎日新聞社発行の「貧困の現場」を書店で買い求めください。